

東近江市中心市街地活性化協議会 第5回協議会 会議録

■開催日時：平成28年11月30日（木）10:00～11:30

■場 所：東近江市役所 本館 301 会議室

■出席者：委員20名（うち3名代理出席）

1 開会挨拶

会長：当協議会も5回目となった。ここに示されている計画書はこれまでの協議会の意見が概ね反映されたものになっている。本日の協議会の後半で意見書を市長に提出する予定。そのため、大きな変更はできないが、国に計画を認定してもらってから事業を進めていく上での参考にもなるので、今回も活発な議論をお願いする。

2 議事

(1) 第4回東近江市中心市街地活性化協議会会議録について

会長：会議録を事前に配布しているが、意見等ないか。

委員：（特に意見等なく了承）

会長：では、これで会議録を確定とする。

(2) 東近江市中心市街地活性化基本計画（案）について

事務局：（資料2「東近江市中心市街地活性化基本計画（案）」、当日差し替え資料の説明）

会長：質問や意見はないか。

委員：目標指標として実数ではなく、割合にするのは市としては珍しいのではないか。割合では、目標がよくわからなくなるのでは。民間では多くの場合、絶対数で目標を設定する。なぜ、実数の目標ではなく、割合を目標としたのか、もう少し詳しく聞きたい。

事務局：各地で中心市街地活性化に関わる事業を進めている中で、ほとんど目標達成ができていないという通達が国からあった。これまで内閣府としては目標を高く設定してきたが、そのような現状を受けて、慎重になっている。全国で人口減少が進む中、東近江市の中心市街地で現状維持という目標は厳しいのではないかということで、実数よりも少しぼかすことができる割合にしてはどうかという提案をもらった。内閣府としても中心市街地活性化の成果を全国的に示していかないといけないという事情もあるようだ。

委員：内閣府からの指摘を受けて、直したということか。

事務局：その通りである。ここに示す市全体に占める中心市街地内人口の割合の分子となっている数字はこれまでの目標指標と同じ中心市街地内人口7,400人としており、東近江市としての考えは変えていないが、内閣府からもこの数字自体も下げてもどうかとの指摘をもらっている。しかし、この考えは変えたくないと思っているので、これまでの中心市街地内人口7,400人という目標を市全体に占める中心市街地内人口の割合にするという、表現の仕方を変えるだけで説得していきたいと考えている。

委員：この計画書の中で割合として目標設定をすると、様々な場面で市としても公表していく数字になると思う。その場合、本当に割合でよいのか。

事務局：内閣府としては、中心市街地内人口7,400人の目標は大変厳しいとの印象を持たれている全国的に人口減少が進む中、東近江市だけでなく、他の市町も移住施策を頑張っているの、取り合いになる。東近江市の一人勝ちは難しい。また、東近江市には山間部も農村部もあり、全ての住民にまちなかに移住しろとは言えず、それぞれの地域で頑張ってもらわなければならない。結局、現状維持を目指すことを目標として、国庫補助をもらって事業をしたのに、目標を達成しない

と効果なしと評価されてしまう可能性がある。分母である全市の人口は下ると予想され、その減少は農村部などで大きくなるため、中心市街地の人口が減少したとしても市全体に占める中心市街地内人口の割合としては上がるかもしれないが、その値を目標にするのではなく、高い目標を設定している。

委員 : 内閣府からの配慮も理解する。しかし、市全体と中心市街地とを一緒に考えてはいけなくとも思いう。全市の人口は減ったとしても、中心市街地の人口だけは減らさないように努力しなくてはならない。個人的には、割合よりも実数のほうがよいと考える。

委員 : 内閣府が財務省に予算要求する立場として、はっきりとわかる実数ではなく、割合にしておいてほしいということか。計画を認定してもらうために有利な目標設定をしておいて、内部的には実数の7,400人を目標として持っておいたらよいのでは。

事務局 : 国としては、内閣府だけでなく、国交省なども「小さな拠点」、「コンパクトシティ」という考え方を推し進めている。その中で、東近江市も立地適正化計画を策定しており、旧八日市地区を都市拠点、旧町の役場付近を小さな拠点と位置づけている。国は、どこかに集約していこうという考え方であり、それを数値で示すと割合ということになる。内閣府としても集約しているということはわかるような目標指標のほうが国の方針に沿っていると言やすい。

会長 : 人口ビジョンの数値も努力すればという数字になっている。さらに、中心市街地は努力していこうという目標設定になっている。その点は評価できるのではないかと。

委員 : 達成が厳しい目標であることは理解するが、目標がぼけてしまうのではないかと懸念する。

委員 : 全体としての感想になるが、この目標指標を達成するためにこれからどのように事業を進めていくのか、かなりのプレッシャーを感じながら、見直していた。頑張るしかない。

会長 : せっかくの機会なので、これまでに発言していない委員にも発言をお願いしたい。

委員 : 他市でも中心市街地活性基本計画を活用して事業を進めており、弊社としてはハード整備がメインになっている。現状をみていると、新たな事業者を呼んでくることはなかなか難しい。行政だけでなく、まちづくり公社、民間事業といった様々な主体の中で、新規出店へのハードルを下げる取り組みが必要だと思う。最初は3年、5年といった形で時限的な支援をしていくことも必要である。弊社としても、協力体制を作っていきたい。

委員 : 計画が認定されたら、我々プレーヤーが事業を行っていかなくてはいけない。もし、目標が達成できなかつた場合、どのようなことが起こるのか。

事務局 : 目的外使用であれば、補助金は返還してなくてはいけないが、目標を達成できなかつたからといって、補助金の返還を求められることはない。ただ、2期計画を策定するとなった場合、前回計画の成果を問われるので、2期計画認定へのハードルが上がるかもしれない。

委員 : まちづくり協議会としては中心市街地エリア内であろうとなかろうと、自分たちのまちは自分たちで守っていくといった考えの元で、いろいろなところにアンテナを巡らせて、様々な地域の団体や大学などと交流しながら、できるだけ多くの人にまちに関わってもらっている。このまちをよくしていこうという日頃からの活動の積み重ねが中心市街地の活性化にもつながっていく。国の認定のあるなしにこだわらず、これからも活動を続けていく。自分たちのまちが存続するか否か、若い人たちにどのように地域にとどまってもらえるかと考えている。

監事 : 計画としては5年間であるが、毎年の目標設定をして事業を進めたほうがよいと思う。目標を決めただけでなく、具体的な事業をどのように進めていくのか深掘りした議論をしていかなくてはならない。時間はすぐに過ぎていく、早急に行うべき。また、近年、情報発信が重要であるので、インターネットやSNSをフルに活用して、魅力あるまちづくりを発信していきたいと思う。

監事 : 弊社の業務の中でも若い人に向けた取り込みが重要な課題となっている。若い世代が市内でいかに楽しく過ごせるかが重要になってくる。たねやさんをはじめ、新たな施設に加え、延命公園の整備も進める中で、八日市に多くの人が集まり、楽しんでもらえたら、近江鉄道に乗って、

観光客も来てくれると思う。目標が達成できることを願っている。

- 委員 : 計画の中では割合で示していくが、実数としての中心市街地内人口7,400人を意識しながら、人口ビジョンに掲げる目標も達成するために東近江市としても頑張っていかなければならない。
- 委員 : 仕事の都合上、欠席が多くなってしまったことを申し訳なく思っている。しかし、議事録をみる中で、委員が一人一人真摯に受け止め、貴重な意見を発信していただき、充実した会議になっていると感じていた。事務局も丁寧な調査、迅速なまとめの作業など、素晴らしい対応である。そのような中でこのような素晴らしい案にまとまったと思う。これからが本番。この5年間でどのように成果を上げていくのか。計画案が現状に沿って進められているのかも検証しながら、事業を実行していかなければならない。
- 委員 : よい計画ができた。たくさんの事業をどのように進めて行くのかが、これからの課題。目に見える形で進めていかないといけない。頑張っていかないといけないと思っている。
- 委員 : アピアとしても事業計画案が実現できるように、今から少しずつ内部でも検討を始めている。今のところは、協力体制を作っていきたいとしか言えない。
- 委員 : 先日の内閣府の視察について、どのような感想を持たれたのか聞きたい。
- 委員 : これまで地域のお客様に育てていただいたので、この計画についても目標達成できるように出来る限り尽力したいと考えている。
- 委員 : 計画は5年間ということだが、この協議会メンバーもその間に変わってしまう可能性もある。その中で、計画、事業を浸透させていくためにはこの集まっているメンバーだけではいけない。周りに伝えていく努力をしなくてはならない。メンバーが変わっても計画を実行し続けられる体制づくりが必要だと思う。どのような順番で実施していくのか、なかなか思い浮かんでこないが、本日欠席の福嶋とも相談しながら、進めていきたい。大変なことだと自覚した。
- 委員 : 私事だが、母がとある駅前再開発のエリアで商売をしていたので、人に来てもらうためにはどのようにしたらいいのか、何度も集まって話し合う等、苦勞していたのを見ている。本当にここからが大変だとひしひしと感じている。
- 委員 : 歩行者通行量の増加について、少し駅からは遠くなるが、たねやの新店舗が少しでも役に立てればと思っている。
- 委員 : この12月議会では委員の皆様の思いをしっかりと把握して、答弁をさせていただきたい。先ほど大橋委員に「我々プレイヤーが」と言っていた。市が出来ることは頑張ってやっけていくが、それだけではできない。中心市街地に集まってきた人に各地域に行ってもらい、そんなまちづくりにしていきたい。
- 委員 : お願いになるが、近江鉄道に多くの人々が乗り各地に行っていただけるように、近江鉄道さんとも連携していきたい。民間事業者の方々にも、中心市街地に人が集まってきていただけるような新たな事業の展開があれば、お願いしたい。
- 会長 : 全委員の皆様の意見を聞かせていただいた。これまでの議論を通して、委員の皆様の意見が集約された計画書になったものとする。

(3) 東近江市中心市街地活性化基本計画(案)の意見照会に対する回答について

- 会長 : 11月21日付けで、市長から意見照会をいただいた。それに対する回答として、意見書をまとめた。事務局から説明いただく。
- 事務局 : (資料3「東近江市中心市街地活性化基本計画(案)に対する意見書(案)」の説明)
- 会長 : 意見はないか。
- 全委員 : (特に意見等なく了承)
- 会長 : それでは後ほど市長に提出する。

3 その他

(1) 視察研修の計画について

事務局：(視察研修計画案、今後の協議会の進め方について説明)

会長：今後の協議会の進め方について、事前の方針案を示し、委員に十分に伝えてほしい。

(2) たねやの新規店舗について

委員：新規店舗「八日市の杜」のオープンが1月10日に決まった。今ある自然を生かした、緑を感じていただける店舗づくりを進めている。2012年に洋菓子のオリンピックと呼ばれる大会のチョコレート部門で優勝した小野林シェフを柱として、八日市店限定のショコラバームの販売や小野林のチョコレートが十分に味わっていただけるカフェを予定している。また、クラブハリエで初めて「シェフズカウンター」というシェフが提案するショコラのコース料理を楽しんでもらえる予定。1月オープンで2月のバレンタインデーまでは多くのお客様の訪問を予想しており、迷惑をおかけすることもあると思う。和菓子のほうでも、永源寺に在るたねやの農園で栽培したよもぎや黒豆を使った限定商品を考えている。

会長：駐車場はどのように考えているのか。

委員：敷地内では50台程度を考えている。しかし、観光バスは入れないので、団体観光のお客様はラ・コリーナを案内することになるかもしれない。

会長：バスを止められる方法も考えてもらえるとありがたい。

委員：現在の店舗があるまちなかからは離れてしまうので、さみしい感じもする。

委員：ぜひ、バス等を使用してもらい、八日市駅からのお客様も来ていただきたい。

委員：ちょっとバスだけでは便利が悪い。路面電車を走らせても面白いかもしれない。

委員：八日市駅からもお客様に来ていただくために、しっかりとした案内をしたいと考えている。

委員：中心市街地の活性化の観点で言うと、駅から新店舗まで楽しく歩いてもらえるようにしなくてはいけないと思う。人を歩かすということも大事なことである。

委員：たねやまでの楽しい行き方のパンフレットを作ってもいいかもしれない。

委員：過去の良い例として、全国ご当地うどんサミットを大風会館敷地で開催したが、当初の心配をよそに、意外と人が駅から歩いてくれた。八日市高校の前にスターバックスコーヒーもできるので、工夫次第で、歩いてもらえると思う。

(3) 内閣府の視察報告について

事務局：11月24日に内閣府から3名視察にきてもらった。行程として、アピア・駅前の空地の視察、市長との懇談、延命公園・清水川・延命新地・商店街の空き店舗・新八日市駅の視察と回ってもらった。内閣府としてはいつどのような形で事業を実施するのか、本当に実施できるのかを見に来られたという感じであった。アピアについては1階と4階を見てもらったが、ここは事業実施の必要性があると告げられた。延命公園についても整備が必要だと言われた。清水川については地元の方々による整備がなされているので、国からの支援を受けながらさらに整備したいと紹介したら、興味を持ってもらえた。延命新地については木格子の残った建物を見てもらい、関心を持ってもらえた。商店街では、シャッター街の様子を見て、何かしなくてはいけないと言われた。新八日市駅については、よくこのような建物が残っているものだと感心していた。総じて手ごたえは良かったと思う。

4 東近江市中心市街地活性化基本計画(案)に対する意見書の提出

事務局：東近江市中心市街地活性化基本計画(案)に対する意見書を高村会長から代表で提出していただく。

(会長が意見書を朗読し、市長に提出した。)

市長 : 5回にわたる熱心な議論に感謝申し上げます。それぞれの立場から真剣に議論していただけたと感じている。視察に来られた内閣府の地方創生担当参事官に東近江市の実情をみていただいた際、話をする中で、議会と市長部局がこれだけ連携している市町村はあまり見ない。それに加え、経済界も協力している。三位一体で中心市街地活性化への意欲を感じさせてもらったという嬉しい言葉をいただいた。計画書は出来上がったが、これから実際に事業を行っていかなくてはならない。真剣に取り組んでいく所存である。滋賀県のように10万人都市を多数抱えるところは少なく、その中でも東近江市は中間のロケーションであり、重要な役割があることを再認識していかなくてはならない。商業中心性指標が1を切っているということは、かつての25万人の商圏人口を支えていた八日市がさぼっているように思われる。大手スーパーにはない付加価値のある商品を販売して、人を集めていくことが必要である。東近江市としても1市6町の合併からの10年間は、旧町とのバランスを見たり、旧町の残された課題を解決してきた。やっと今、中心市街地に取り組める。この意見書も委員の熱い思いがこもっているものとして受け取った。引き続きご協力いただきたい。サポート、叱咤をお願いする。最後に、改めて感謝の気持ちを述べる。

5 閉会挨拶

副会長:本日意見書を提出するに至ったことは、委員の皆様のご協力の賜物であり大変感謝申し上げます。先ほど市長からも力強い言葉をもらった。春には国の認定を得て、活性化に向けて様々な事業を進めていけると確信している。この協議会も総合的な調整役として、ますます重要な役割を担っていくことになる。今後さらに協議会を発展させていきたいので、これからもご協力を願う。

(終了)